

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

3月から12歳未満の子どもたちの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

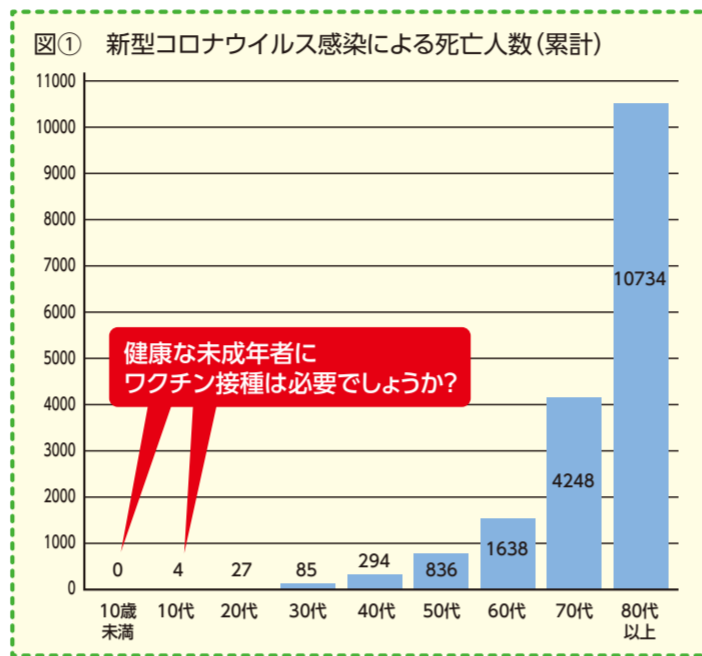
未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか。厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまで4人いるが、その内の3人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人は「コロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、これまでに「コロナ感染で死亡した健康な未成年者はただの一人もいない。重症化もほとんどしていない。」

一方でオミクロン株も含め新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言える。

この状況を招いた最大の原因は、国や自治体が躍起になって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要なくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。

しかしその目的のために、子どもや若者に「自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。



※新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(令和4年1月18日24時時点)

健康な未成年者にワクチン接種は必要でしょうか？

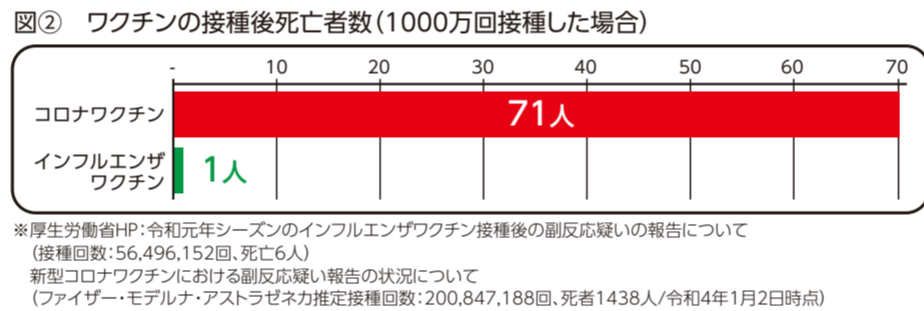
1606人にも上り、そのうち

ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない？

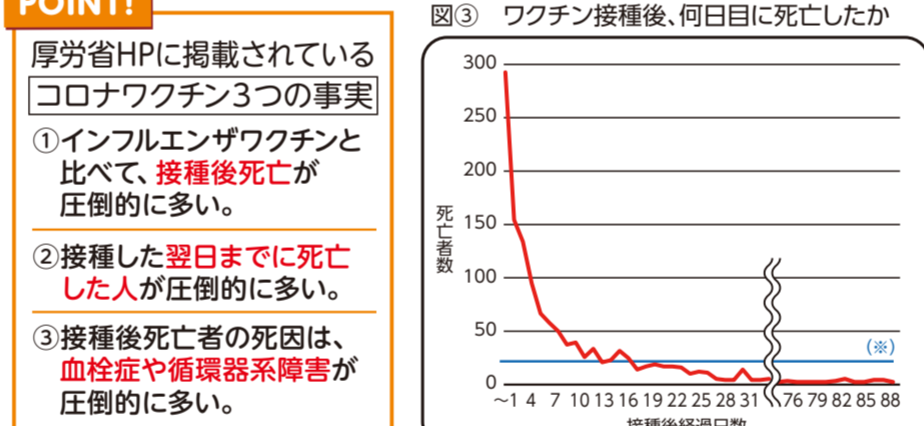
未成年者にとつて有害なもの、大人にとつても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人（ファイザー製1377人・モデルナ製66人・アストラゼネカ製1人）に達している。しかしワクチン接種で突然死亡した場合も含めて、厚労省は「人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り、接種が原因で多くの方

がなくなった」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。

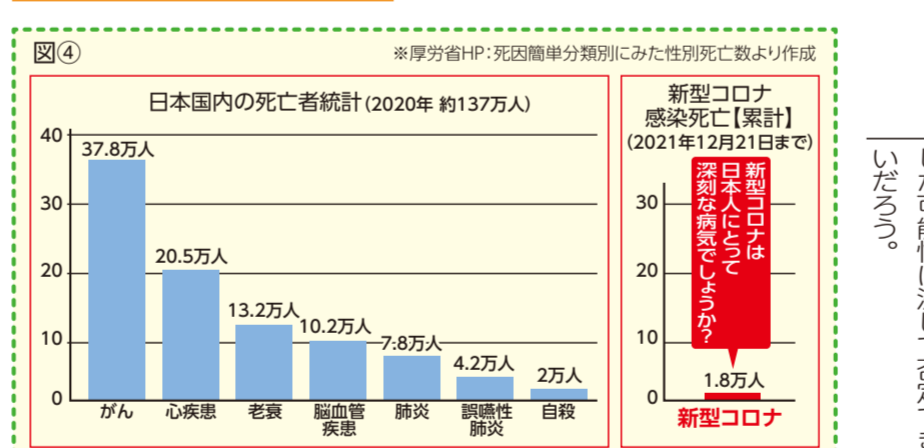
しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にたまたま大勢の人が死亡するの、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろうか（図②）。その理由は「たまたまの死亡」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そもそも、



※厚生労働省HP:令和元年シーズンのインフルエンザワクチン接種後の副反応疑いの報告について(接種回数:56,496,152回、死亡6人)
新型コロナウイルスにおける副反応疑い報告の状況について(ファイザー・モデルナ・アストラゼネカ推定接種回数:200,847,188回、死者1438人/令和4年1月2日時点)



POINT!
厚労省HPに掲載されている「コロナワクチン3つの事実」
①インフルエンザワクチンと比べて、接種後死亡が圧倒的に多い。
②接種した翌日までに死亡した人が圧倒的に多い。
③接種後死亡者の死因は、血栓症や循環器系障害が圧倒的に多い。



※厚生労働省HP:死因別死亡数より作成

ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を引き起こすことはありません」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉

経したが生理が再開したという副反応まで報告されていて、日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起こ

っている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験試薬」だからだ。それは人体への長期的な影響が誰にも予見できないことを意味する。

河野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「治験が省略されることなく実施され、長期的な安全性について特段の不安がある」と断言している。ところが事実は違っていて、厚

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまつたため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生殖機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザー社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分が確実に卵巣や精巣自体にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「不妊にならない」との記載は一言もなく、ただ「現時点では、ワクチン接種が不妊の原因になると科学的な根拠は報告されていません」と書いてあるだけだ。

これについて前出の井上正康大阪府立大学名誉教授は「ワクチン接種が始まったばかりのため、不妊の根拠が報告されなかったら、これから数年、数十年後のことである。何らかの異変

※ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。

おすすめ最新書籍(参考文献)

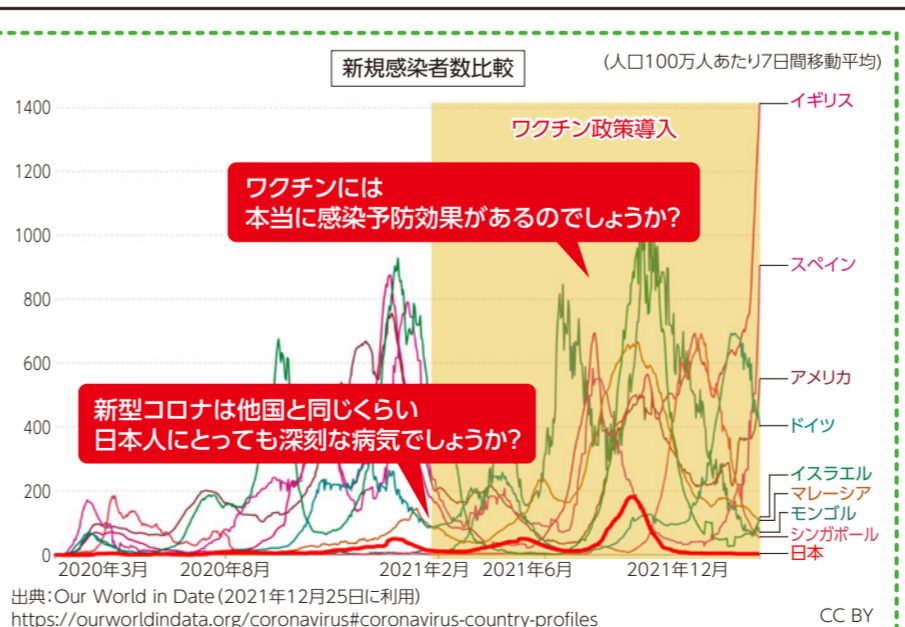
- 「まんがでわかりやすく解説!」[ゴーマニズム宣言SPECIAL] コロナ論4 (扶桑社) 著書:小林 よしのり (2021年11月18日)
- 「コロナとワクチンの全貌」(小学館) 著書:小林 よしのり/井上 正康 (2021年9月30日)
- 「新型コロナ騒動の正しい終わらせ方」(方丈社) 著書:井上 正康/松田 学 (2021年12月1日)

「簡単!10分で分かる 新型コロナワクチンの危険性」

井上正康先生講演会動画

2021年最新動画

「新型コロナワクチンについて」特別講座 (15分) 井上 正康先生



ここでは、ワクチンの「危険性」の一部を紹介しました。掲載できなかった、その他の詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 117,645,395円 (1月26日19時20分時点)

右QRコードからもご覧頂けます。

<https://jccovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記QRコードよりご意見をお寄せください
ご意見・ご感想をお聞かせください。

メール mail@dbank.jp